

国史跡 会津 大塚山古墳

会津若松市は会津盆地南東縁部に位置し、市内一箕町には、多くの古墳が分布しています。その中でも会津大塚山古墳、堂ヶ作山古墳、飯盛山古墳は丘陵上に造られた大型古墳で、この地域を治めていた権力者の古墳と考えられています。

会津大塚山古墳は、一箕町八幡の大塚山頂上に位置し、昭和39年に会津若松史編纂にあたり、この時代の資料が少なかったことから発掘調査が行われました。

当時は、西日本の古墳文化が東北地方に伝わるのに数百年かかるため、会津大塚山古墳も古墳時代の終わりにあたる、7世紀頃の築造と考えられていました。

ところが調査してみると、三角縁神獣鏡をはじめとする3枚の鏡、勾玉・ガラス玉などの装飾品、三葉環頭大刀・鉄鏃・銅鏃などの武具、鉄斧・刀子などの農耕具など約380点が出土し、出土品の年代や、墳丘の形状から古墳時代前期にあたる4世紀後半の古墳と考えられました。現在ではそれより古く、4世紀中頃の古墳と考えられています。

東北地方の古墳で、これほど豊富で貴重な副葬品を持つ古墳はなく、また、副葬品が大和政権に関係する古墳と共通しているため、この古墳の被葬者は、大和政権と関係をもった人物であることがわかります。

また、堂ヶ作山古墳からは、会津大塚山古墳よりも古い時期の土器が出土しており、飯盛山古墳も発掘調査は行われていませんが、古墳の形状から会津大塚山古墳よりも古い時期に造られたと考えられています。



不動川沿いに築かれた3つの古墳(北西から撮影)